

常任委員会の審査

各常任委員会では、所管する部署の事務に関し政策立案等を行う「政策課題」の設定をしました。これから2年間かけて、設定した政策課題について重点的に掘り下げて議論します。

総務文教委員会

政策課題「富士宮市の公共交通の確保について」

【松永孝男委員長のコメント】

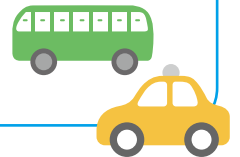
総務文教委員会では2年間の政策課題を決定するに当たり、各会派から検討したいテーマを募集しました。沢山の意見の中で3会派より富士宮市の公共交通について検討したいとの提案があり、「富士宮市の公共交通の確保について」を2年間の政策課題と決定しました。

高齢化と郊外地域の過疎化が進み既存のバス路線が減少していく中で、交通弱者の生活の足の確保と、高齢者の事故を減らすための免許証返納を進めていくために、現行の「宮バス・宮タク」の再検討、地域のボランティア団体等が行う「自家用有償旅客運送」、近年シェアリングエコノミーとして注目されつつある「ライドシェア^{*1}」についてなど、多方面から情報を収集し、富士宮市の事情にあった公共交通のあり方を調査検討していきます。

また、同時に出された「浅間大社を中心とした世界遺産のまちづくり」、「国民健康保険制度の展望」、「投票率の向上」、「委員会・審議会における女性のクォーター制度^{*2}」、「富士宮市人口ビジョンの達成」、「いじめや不登校など小・中学校の諸問題」などは2年間の中で所管事務調査として調査していきます。特に小・中学校の問題については9年制の義務教育学校も視野に入れて検討したいと考えています。

※1 自動車の運転者とそれに相乗りする人、または相乗りする人同士を引き合わせるサービス。

※2 政治における男女平等を実現するために、議員などの一定数を女性に割り当てる制度。



環境厚生委員会

政策課題「富士宮市が目指す地域循環共生圏^{*1}について」

【中村憲一委員長のコメント】

“8050問題”が社会的に耳目を集めたことを受け、当市における8050問題^{*2}の現状と対策を調査しました。40歳～64歳の“ひきこもり”は、全国に61万3000人存在すると推計されますが、当市の実数は分かっていません。当市では生活困窮者自立支援事業に基づき、“ひきこもり”状態にある方々を支援しています。また、背景には子ども期からの“ひきこもり”問題があると言われてるので、福祉部門と教育部門が連携して対応する必要があります。

児童虐待問題の現状と対策については、他自治体で関係機関の連携の不備により事態が深刻化した事案を受け、市の家庭児童相談室、県の児童相談所、その他関係機関との連携対応状況及び、虐待と疑われる通報から48時間以内に目視で安否確認する“48時間ルール”の励行状況を確認しました。

また政策課題については、“富士宮市が目指す地域循環共生圏について”とすることに決定しました。地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた地域循環共生圏の創造に取り組む活動団体に当市が選定されたことを受け、当局とともに環境整備に取り組むとともに伴走型の政策提言を行い、“地域循環共生圏づくりプラットフォーム”の構築を支援していきます。

※1 各地域が持つ地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、各地域の資源を補完し合い、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方。

※2 長期化した引きこもりに関する社会問題。80代の親が50代の子どもの生活を支えることから8050問題と言われる。

